

静岡・島田市受け入れへ

北九州市議会も決議可決

震災がれきの受け入れ準備を進める静岡県島田市は12日、試験焼却で排出したガスから放射性セシウムを検出されなかったとする検査結果を市議会に報告した。桜井勝郎市長は15日に受け入れを正式表明する方針。がれきの全国的な広域処理が被災地復興の課題と

なる中、12日には北九州市議会が市に受け入れを求める決議を可決するなど動きもあり、地方自治体の対応が加速しそうだ。環境省によると、焼却や埋め立てなどで処理済みのがれきは8日現在、全体の約6割止まり。広域処理をめぐっては、住民の反対で

慎重姿勢に転じる自治体が続出したが、科学的に安全性を実証して住民の理解を求める島田市の取り組みが注目される。同市が対象とするのは岩手県大槌、山田両町のがれき。このうち山田町のがれき10トを、2月16、17日に同市の家庭ごみ56トと混ぜて試験焼却し

た。焼却施設からの排出ガスについて1立方メートル当たりのセシウム濃度を調べた結果、検出されなかった。

島田市によると、同市への輸送に際して山田町で測定したがれき2検体のセシウム濃度は、1詰当たり15・2トと15・8ト。輸送中、がれきを積んだコンテナ周辺で計測した、時間当たりの空気中の放射線量に問題は確認されなかった。試験焼却したがれきの焼却灰のセシウム濃度も同64トで国の基準（同8千ト）を大きく下回った。